

2023年度 自己点検・自己評価

1. 学校の教育目標

- 1) 人々の生命と個々の人格を尊重し、豊かな人間性を備えている。
- 2) 看護の対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解している。
- 3) 人々の健康と生活を、自然・社会環境とのダイナミックな相互作用の観点から理解している。
- 4) 人々の多様な価値観を尊重し、専門職業人としての倫理観に基づいた行動をとる。
- 5) 健康や障害の状態に応じ、科学的根拠に基づいた看護を実践するための基礎的能力をもつ。
- 6) 保健医療福祉制度と他職種の役割を理解し、チーム医療を実践するための基礎的能力をもつ。
- 7) 看護実践者として国際的視野をもち、医療の最新知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつ。

2. 2023年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1) 質の高い人材の確保と育成

(1) 推薦・一般入学試験受験者の確保

- ① 高等学校との連携強化と広報活動の推進（県内・県外）
- ② 高等学校への訪問と適切な在校生情報の提供
- ③ 保護者に向けた情報発信
- ④ ホームページ等（動画・SNS）での情報発信とオープンスクール開催の工夫

(2) 国立病院機構及び社会に貢献できる看護実践者の育成

- ① 国立病院機構病院への就職推進・自己にあったキャリア形成
- ② 看護師国家試験の合格率100%を目指す（1年次からの国家試験対策）
- ③ 実習病院との連携強化（実習指導者学習会の協働、実習指導者研修会の開催）
- ④ 学生一人一人の成長・課題に合わせたきめの細かいタイムリーな指導
- ⑤ 学生満足度の向上（中間、年度末）

2) 質の高い教育の向上

(1) 学習・実習環境の充実

- ① 学生の声に耳を傾け、学生が話しやすい雰囲気づくりに努める
- ② 教員間のアサーティブで建設的な意見交換
- ③ 新カリキュラムの実施・評価（アクティブラーニングの評価：講義・演習・実習）
- ④ 授業および実習評価の活用と向上
- ⑤ 学生による卒業時カリキュラム評価前年度以上
- ⑥ 実習指導方法の検討
- ⑦ 教員インターンシップの開催

3) 看護教員の教育力・マネジメント能力の向上

(1) 看護教員の積極的な能力開発への取り組み

- ① 授業案の検討
- ② 授業研究の促進（校内・校外）
- ③ 研究活動の促進
- ④ 看護管理実務研修（教育及び臨床）の促進
- ⑤ 看護教員能力開発プログラム（TNAD）による教員個々のキャリア育成

4) 学生が主体的に考え、判断し、行動できる基礎的能力を育成する

(1) 社会人基礎力の育成

- ① 学生に役割を付与し、履行できるように支援する
学生自治会活動、学生フォーラム、感染防止対策等
- ② 1年次から毎年自己評価（自己の成長を確認）

(2) 豊かな人間性と高い倫理観の育成

- ① 学生が自ら考え、感じ、発言および行動できるように支援する
講義・演習・実習・学生生活
- ② 倫理的視点に基づいた学生指導（倫理観の醸成）

5) 将来を見据えた学校の在り方と組織の活性化・効率化

(1) 附属養成所の運営の在り方を検討

- ① 学校運営状況の評価
実習費の運用、在庫定数の徹底、無駄な経費の削減（印刷紙、光熱費等）
- ② 地域医療介護総合確保基金の獲得
群馬県及び高崎市への申請と協議
- ③ 外部評価委員会の運用の確立
学校間評価、学校間連絡

(2) 危機管理に備えた組織体制づくり

- ① 災害対策マニュアル見直しと更新
- ② 連絡網システムの運用と定着（定期的な情報発信と情報確認）

(3) 業務の効率化と健全な勤務環境の改善

- ① 業務の効率化と勤務時間の適正化（勤務管理システムの開始と運用の定着）
- ② 計画的な業務の遂行
- ③ 健康管理
- ④ 職員やりがい度の向上

評価（4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切）

I. 教育理念・目標	
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか）	4
2. 学校における職業教育の特色は何か	4
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
平均	4.0

Ⅱ 学校運営	
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	4
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
平均	4.0

Ⅲ 教育活動	
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での位置づけはあるか	4
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3

14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3
15. 教員の研究活動を保障（時間的・財政的・環境的）しているか	3
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	4
平均	3.6

IV 学修成果	
1. 就職率の向上が図られているか	4
2. 資格取得率の向上が図られているか	4
3. 退学率の低減が図られているか	3
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4
平均	3.8

V 学生支援	
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2. 学生相談体系的に関する体制は整備されているか	4
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	3
7. 保護者と適切に連携しているか	4
8. 卒業生への支援体制はあるか	4
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
平均	3.7

Ⅵ 教育環境	
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
3. 防災に対する体制は整備されているか	3
平均	3.3

Ⅶ 学生の受け入れ募集	
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	4
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3. 学納金は妥当なものとなっているか	4
平均	4.0

Ⅷ 財務	
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4
平均	3.7

Ⅸ 法令等の遵守	
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4. 自己評価結果を公開しているか	4
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	4
平均	4.0

X 社会貢献・地域貢献	
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4
平均	3.6

XI 国際交流（必要性に応じて）	
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	2
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
平均	2.2

2023 年度 外部評価委員意見

矢島 正（群馬大学医学部医学科講師）

1. 総評

自己点検・自己評価結果において、全項目にわたり前年度（前々年度）と比較して高い結果が出ていることから、学校運営に関して喫緊に解決しなければならない重大な課題はないと考えました。

2. 各項目に対する所見

1) 2023 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画について

5 観点から数多くの項目を取り上げていただいております。学校運営全般を見通した視野の広い計画に基づいた経営がなされたことがうかがえます。それぞれの項目とも大事であり、その内容に対してはかなりの成果を得た部分と

課題として残された部分がありますが、これらの内容は単年度で改善が図れるものばかりではありません。そうした視点から短期的なもの、長期的なものを分類整理し、次年度に特に力を入れるべきものは何かを限定的に洗い出されるとよいのではないかと考えます。とはいえ、自己評価結果からは多くの項目について好ましい進展や改善が図られたと考えます。

2) 項目別評価結果について

① 教育理念・目標

看護大学との教育の違いを意識して専修学校としての特徴を生かした学校運営を進めている点については、社会状況の変化により厳しさが増す中でよく努力されていると考えます。保護者との対話にも配慮されている姿勢は時代性にもあった方向です。

② 学校運営

最も心配される点は学校経営収支の厳しさが増している点です。特に県からの補助金の獲得については継続的な努力の結果が実を結んだ様であり大変よかったと考えます。教職員の勤務状況の改善にも取り組み、より働き方改革にも尽力されることを願います。

③ 教育活動

カリキュラムの変更も2年目となりやや落ち着いた状況が生れたのではないかと考えます。進路ガイダンスに配慮されている点はとても良いです。時間的、環境的などの面からの制約があり、教職員の研修の場、特に、自らが希望する研修の場への参加ができるような勤務環境が実現できることでさらに教育の全体的な質の向上が期待できると考えます。

④ 学修成果

100%に近い国試合格率は、様々な課題を抱えた厳しい条件下では立派な成果であったと考えます。同様に退学率が前年度と比較して大幅に減少したことは学校全体での努力の賜物であり、敬意を表します。卒業後のキャリア形成のあり方についても、様々な方途があることを早い時期から学生に知らしめていくことは重要です。進路ガイダンスについてさらにご配慮ください。

⑤ 学生支援

コロナ禍がようやく収束に向かい状況が見えてきており、それに伴ってこれまで行えなかった一部の学校行事が復活できたことは非常に喜ばしいことです。まだまだ感染症に対する配慮は不可欠ですが、最大限の努力をさせていただき、学生の学校生活がより有意義に感じられるものになって欲しいと願います。学生は様々な個別の事情を抱えています。そうした面に対する配慮と相談体制の充実も図っていただけるとよいと考えます。

⑥ 教育環境

インターンシップの充実に関しては、学生の意識の向上の面からも引き続きご尽力願います。受け入れ側の課題もありますので、連携機関との密接な連絡調整を願います。防災については日常的な各種の危機管理意識向上の面からも重要な観点です。特に、大規模災害の発生時には重要な看護ソースであるという意識を学生に持たせるよう期待します。

⑦ 学生の受け入れ募集

少子化の急激な進捗に伴い、本校のみならずすべての教育機関では学生定員の充足に苦慮しているところです。その中で、本校としても入試のあり方や事前説明会の持ち方などで様々な努力をされていると考えます。難しさもありますが、いろいろな情報ツールを活用して本校での学びの充実について周知していただけるとよいと考えます。ネット情報などはリスクもありますが効果的に活用できると有効です。

⑧ 財務

母体病院の経営が黒字である面は安心できる要素ではありますが、外部からの補助金の獲得などは重要であり、次年度以降も継続して様々な働きかけを行っていただきたいと考えます。経費削減は大事ですが、それを意識しすぎて学生の学びや学校生活が過度に制約を受けないようにご配慮ください。

⑨ 法令等の遵守

全般的に見て法令の遵守についてはきちんとなされていると考えます。自己評価、学生による評価、外部による評価など組み合わせて、実態の把握に努めている点はよいと考えます。教職員の勤務に関してウエルビーイングも法令遵守に関わる重要な事項です。今後も十分配慮ください。

⑩ 社会貢献・地域貢献

学生によるボランティア活動が次第に可能になってきたことはよい傾向です。感染症等には十分に配慮しつつ、次年度以降も拡げていただきたいと考えます。実際にボランティア活動に取り組むことで看護という職の重要性に

実感的に気づけると考えます。

① 国際交流

現状難しさはあるとは思いますが、留学生や外国籍の方が学校での学習の様子を体験するなどの事例が生れると日本人学生にもよい影響を与えることができると考えます。

3) 総合的な評価結果について

① 質の高い人材の確保と育成

国家資格取得率は高い水準を維持できています。その点に在学生在が誇りを持ち後輩にきちんと伝えていけるような機会（オープンスクール、各高校への情報提供）の工夫と活用を期待します。オープンスクールの参加者増はよい傾向であると考えます。受験機会の増加も負担は生じますが、今後ご努力ください。学生の評価が高かった点もよいと考えます。最近の若い人たちへの対応は寄り添い共感的な理解を重視することが肝要です。

② 質の高い教育の向上

私自身の担当授業でもアクティブラーニングの要素を積極的に取り入れていますが、学生にとっては内容の理解にも有効であると感じます。ルーブリックの活用は私の授業の中でもその意義についての学びを行いました。こうした評価のあり方自体学生はよく分かっていませんでしたが、それが大事であることがわかると意識も変わるようです。教員が相談しやすい存在としてさらに学生から頼られるようになることを期待します。

③ 看護教員の教育力・マネジメント能力の向上

教員の研修の充実によってより新しい知見の増大を目指していることが理解できました。今後この方向でご努力ください。群馬県下における看護学校の教育をリードする存在です。こうした自負の上で、教員の実践的指導能力の一層の充実を図っていただきたいと考えます。

④ 学生が主体的に考え、判断し、行動できる基礎能力の育成

看護専門職において社会人基礎力の重視は重要です。倫理観や職業的アイデンティティの形成はポイントです。私の授業でもこうした面での内容を積極的に取り上げましたが、多くの学生が関心をもって真剣に学んでいました。また、コロナ禍でコミュニケーション能力の育成が難しい面もありました。今後状況の改善に伴い、こうした点でも能力向上が図られるようご尽力ください。

⑤ 将来を見据えた学校のあり方と組織の活性化・効率化

ipadの積極的な利用はこれからの職務能力に必要なことであり学びの中に積極的に取り入れることは重要だと感じます。(学校でも一人一台タブレットは当たり前になりましたので)私の授業資料などはデータ化して学生が活用できるようにしたいと考えています。情報漏洩や不適切情報の無意識な取り込みなど危機管理には配慮が必要ですが、時代の流れに応じた対応が必要だと思います。

3. まとめ(評価者の感想)

次年度も本年度の成果を一層生かし、課題点の解決を志向して学校運営に当たっていただきたいと考えます。また、課題は目につきやすいものですが、そればかり気にしすぎると負担感ばかりが増大します。ぜひ、焦点化を意識して学校運営を進めていただきたいと考えます。教職員も学生も前向きな明るい気持ちで協働的に学びを高める姿勢で取り組んでください。